

教務だより

2017年9月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

WIN-WINが見えてきた！

茗溪塾塾長 宇野雅春

夏休みが終わり、学校がはじまりました。学校行事だなんだかんだと、多忙な毎日が始まっています。受験生にも関わらずなかなか本気になれず、ついついゲームや遊びに流されている生徒もいます。ほっておくとさぼりまくり、注意するとかえってマイナス、親に言われると「今やろうとしていたのに！…もうやらない！」などと開き直ります。でもそういう受験生にも、再び集中のときはやってきます。人間いろいろ周りの影響で「ぶれる」のは当たり前のこと。必ず、一方ではまじめに考えているからです。この繰り返しで何とか受験にたどりつくのが、大方の受験生なのだと思います。でも、気づくなら早い方がいいに決まっています。受験勉強はどうやるにしろ、避けては通れないことだからです。同じことをやるなら笑顔で進んでやる！「よく頑張るね！」と褒められた方がいい。

周りともめながらやる受験生は、結局何かに「甘え」、すべてを「他責」にしています。

「受験」勉強は孤独で辛いひたすら苦しい体験なのではないでしょうか？努力することの中にも喜びはあります。しかも、努力の結果は大きな「喜び」につながります。一生懸命に頑張っている生徒はそのことを知っています。そして必ずそこには、その喜びを保証する「集団」があります。そういう集団をつくっていくうえで大切なのが WIN-WIN の考えです。

今年夏を通じて常に念頭にあったことは、大学入試改革からスタートする日本の教育内容がどう変化するのかということです。一番大切なことは、「人とのコミュニケーション能力」です。学問を通して得られる知識や教養もこのコミュニケーション能力を獲得するための土台になるものという目的を忘れてはなりません。

ただし今の学校教育における「いじめの横行」等を見ると、集団は必ずしも人を育てるものになっていないということがわかります。これは lose-lose が大きく集団を支配している結果です。「自分がダメなら、人もダメにする」それが lose-lose です。自分がダメになりたいわけではないのですが人にちょっかいを出し、周りをかき乱さざるを得ないところに自分が陥っているということなのです。これを克服していく考え方が WIN-WIN です。

合宿や短期集中ゼミの最終日、表彰式の中でこんな話をしました。

今、表彰された人を羨ましいとかひたすら悔しいと感じた人は、「win-lose」の人です。表彰された人はすごい！でも自分は無理だから…と思った人は、「lose-win」…。表彰なんて関係ないから騒いでしまえ！と友達とおしゃべりをするような人は「lose-lose」です。

WIN-WIN の人は、「すごい！…自分も次は頑張ろう！」と考えます。人がうれしいことを共に喜びあえる関係。そしてそれを次の自分の成長に活かしていく関係です。このコミュニケーションの「方法」が身につけていけば、いじめは起こりません。

受験勉強こそは WIN-WIN を学ぶチャンスです。この関係が成立したときに受験勉強は、がぜん楽しくなり、「合格」は現実になります。人生もまた楽しくなると私は思います。